

美術品（レプリカ）貸出可能作品一覧

【枯木鳴鴉図・掛軸】 宮本武蔵筆

サイズ（タテ×ヨコ）：173.4cm×55.6cm 重さ 0.4kg

剣豪・宮本武蔵(1584～1645)は「二天(にてん)」の号を持ち、優れた絵をのこしたことで知られます。その中でも本作品はとくに際立った出来栄えを示す武蔵の代表作といえるものです。晩年に熊本の細川家に召し抱えられたこと以外、足跡については不明な点が多い人物です。著書『五輪書』には、兵法修行の一つとして絵画をはじめ広く多くの芸に触れることが述べられています。本作品の鴉（もず）は、眼やくちばしの鋭い表現に「鴉の速贄（はやにえ）」と呼ばれる獲物を捕らえ木の枝などに突き刺す習性を想起させる生態が写されています。幹を這い上がる虫、葉を震わす微風が捉えられ、画面に静寂と緊張感が漂うかのようです。武蔵は特定の師にはつかず独学で絵を学んだとされ、水墨画を主とする作品が遺されています。



【枯木鳴鵙図・額絵】宮本武蔵筆

サイズ（タテ×ヨコ） 102.7cm×47.8cm 重さ 3kg

剣豪・宮本武蔵(1584～1645)は「二天(にてん)」の号を持ち、優れた絵をのこしたことで知られます。その中でも本作品はとくに際立った出来栄を示す武蔵の代表作といえるものです。晩年に熊本の細川家に召し抱えられたこと以外、足跡については不明な点が多い人物です。著書『五輪書』には、兵法修行の一つとして絵画をはじめ広く多くの芸に触れることが述べられています。本作品の鵙（もず）は、眼やくちばしの鋭い表現に「鵙の速贄（はやにえ）」と呼ばれる獲物を捕らえ木の枝などに突き刺す習性を想起させる生態が写されています。幹を這い上がる虫、葉を震わす微風が捉えられ、画面に静寂と緊張感が漂うかのようです。武蔵は特定の師にはつかず独学で絵を学んだとされ、水墨画を主とする作品が遺されています。



【富嶽三十六景 凱風快晴・額絵】葛飾北斎筆

サイズ（タテ×ヨコ） 30.5cm×41cm

重さ 0.6kg

凱風とは南から吹く穏やかな風を意味します。富士山の背後に描かれた階層状に棚引く白雲で、緩やかな風の流れを表しています。富士山頂上の山肌を表す茶系統の色に墨色を少し被せた描写、画面左下から徐々に疎らになるように緑色の点を布置する描写は富士山の高さを強調しています。富嶽三十六景の中でも特に知られた一枚であるとともに、富士山を描く絵画としても世界的に知られています。富嶽三十六景は、北斎が70代の時に制作されました。



【富嶽三十六景 神奈川沖浪裏】葛飾北斎筆

サイズ（タテ×ヨコ） 30.5cm×41cm

重さ 0.6kg

富嶽三十六景の中でも特に知られた一枚で、北斎の名を世界的に著名にした図として知られています。荒れる神奈川沖を三艘の小舟が果敢に進み、水主たちは転覆をさけるために船尾に寄り集まっています。大波は遠景の富士山を覆うかのように描かれます。富士山と相似形をなす三角形で描かれる手前の波は、二艘の小舟に挟まれ若干富士山よりも高く描くことで重層的な画構成を際立たせています。フランスの作曲家ドビュッシーが交響楽「海」の楽譜表紙に自らこの絵を選んだことでも知られています。

